

平成28年度第1回なかい戦略みらい会議議事録

日時 平成28年9月27日(火) 14時～

場所 中井町役場 3階 3A会議室

【会議次第】

(開会)

1. 開会

2. あいさつ

3. 議題

(1) 中井町人口ビジョン及び総合戦略の策定について(資料1)

(2) 地方創生先行型交付金事業の効果検証について(資料2)

(3) 地方創生加速化交付金実施事業の概要等について

(資料3-1、3-2、参考資料1、2)

(4) 今後の総合戦略の推進について

4. その他

(閉会)

【議事概要】

1 開会

【事務局】 金子企画課長より開会あいさつ

2 あいさつ

【杉本座長】 こんにちは。お暑い中ご出席いただきましてありがとうございます。

昨年、この会議で、戦略のいろいろなコンセプトから始まって、全体の方
向性を皆さんに議論していただきました。今年になりまして既にプロジェク
トが動いておりまして、今年は中間ぐらいに来ておりますので、今日はいろ
いろ報告内容がございますけれども、ぜひ地方創生の、中井町がこのプロジ
ェクトにかけている思いというのは非常に大きいと思いますので、ぜひ忌憚
のない意見を出していただきたいと。

前回の会議のときにも、責任を持って発言してくださいと、最後まできち

っと、実現するところまで考えてご発言をお願いしたいというふうをお願いしましたが、今年もぜひ、成功させるために、皆さんのお知恵を出していただいて、今進んでいますプロジェクトに対して、適切なアドバイス、ご協力、情報をいただくと、後半、具体的にプロジェクトが進んでいくときに役に立つと思いますので、皆様のご意見を活発に出していただくことをお願いして、私の挨拶にかえさせていただきます。よろしくお願いいたします。

3 議題

(1) 中井町人口ビジョン及び総合戦略の策定について（資料1）

【事務局】 資料1により説明

【杉本座長】 ご説明がありましたけれども、何かご質問・ご意見があればよろしくお願いいたします。

よろしいですか。新しい委員の方は初めてになるかもしれませんが、ほかの方は以前、去年議論していただいたものがまとまっているということでございます。

では、質疑がないようでしたら、後で全体を通してでも結構ですので、次の議題に行きたいと思います。地方創生先行型交付金事業の効果検証について、事務局のほうで説明をお願いします。

(2) 地方創生先行型交付金事業の効果検証について（資料2）

【事務局】 資料2により説明

【杉本座長】 ありがとうございます。

では、皆さんのほうから、ご質問、ご意見、ご自由をお願いいたします。

【西郷委員】 この先行型の案件は31年度を目標値ということで入っているんですけども、今後、もう達成してしまっている、一部達成して、一回で達成しているものも含めて、どういうふうに今後やっていくつもりなのでしょうか。

【杉本座長】 お願いします。

【事務局】 総合戦略でお話をさせていただきましたが、この検証機関の中で総合戦略の見直し、検証の提言ができるということになっていますので、目標値を達成しているものにつきましては、今後、皆様のご意見を伺いながら事業等を見直した中で、再度、みらい会議で総合戦略自体の見直しも考えていきたい

と考えています。

【西郷委員】 新たな目標値を設けるということですか。

【事務局】 はい。

【西郷委員】 全体の構成がわからないのですが、この目標値自体が達成されるとどうなるかは、私には仕組みがわかりませんが、達成してしまえば、もっと新たに大きな目標を掲げればさらに効果が上がるということであれば、新しい目標を立てるといえることでしょうか。

【事務局】 総合戦略の目標年度というのは平成31年度まで、国で決まっています。

ただ、31年度までというのは目標の期間であって、このまま何もしなければ人口が5,000人まで減ってしまうということを考えますと、今回掲げさせていただいた事業は、継続的に実施していくことを考えています。

【西郷委員】 目標値を一部変えることもあるということですね。

【事務局】 はい。

【西郷委員】 1点だけ気になったのは、出生数を目標に掲げているというのは、私、他市町村を見て、初めて見た気がするんですけども、これは補助しただけで出生数が上がるものなんですか。質問です。

【事務局】 委員おっしゃるとおり、総合戦略の基本的戦略3になるんですけども、10、11ページでは里都まち子育て応援戦略ということで、国の政策分野としては若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえることで、中井町においては里都まち子育て応援戦略という戦略を掲げ、基本的方向性として、子育てに係る経済的負担の軽減、一貫した相談体制、居場所づくり、雇用環境の改善などを進めながら、子育て世代の増加、出生数の増加を実現したいと考えております。

そのプロジェクトといたしまして、里都まちネウボラプロジェクトということで、保育料・給食費助成事業という先行で実施させていただいた事業と、切れ目のない相談・情報発信事業ということでは、なかいネウボラを設置し、安心した子育て相談体制を実施していきたい。

また、里都まち子ども居場所づくり事業では、土日とかお休みのときに子どもたちの居場所を作り、町の子ども居場所はここにあるというものを示した中で、やはり定住ですとか移住につなげていきたいと考えてございます。

また、働く親の雇用形態なども考えつつ、子育て世代が生活しやすい中井町というものを目指し、里都まちネウボラプロジェクトを進めていきたいと考えてございます。

【杉本座長】 要するに、この11ページの、27年度に実施した上の部分と下の部分があって、下の事業についてはこれから、目標年次までの間に実施をしていくということになるんだと思います。こっちはまだ成果が出ていない、実施していないので、31年までにはやりましょうということなんですね。とりあえず保育料と給食については、この総合戦略をつくる前から既に実施していたのでしょうか。

【西郷委員】 相当されていますよね。

【杉本座長】 ええ、取り組んでいらっしゃるんで、継続ということで、こちらの事業の中に取り込んだというのもありますけれども。

【西郷委員】 意見として申し上げたいと思うんですが、ここまでつくられているわけですからあれなんですけど、この4つぐらいの保育事業自体はどこもすごく熱心におやりになっているような事業でございまして、単に給食費を助成したからといって出生率が上がるというふうに、出生数が増えるという結論に行っていることに、ちょっと私は危惧をしております。

つまり、もちろん切れ目のない相談事業もどこもおっしゃっておられているので、非常に、ちょっと危惧する計画なのではないかと正直言うと思っておりまして、これをやった上でさらに町独自のPRポイントがあって、対外的にもっとアピールしたあげくに人口を増やしたり、さらに今だと子育てメニューを、例えば、逆に小さい町なので、町の実情を存じ上げませんのであれなんですけれども、就学前と学校行ったお子さんの預ける場所というのがなかなか、セットで預ける場所が非常に少ないとかいう、何というんでしょうか、そういうところへ踏み込んで話をつくっていかないと定住してもらえないというニュアンスが出てくるような時代に、たまたまおととい、日曜日に小田原市で、そういうご意見でお母さんたちが活動しているようなところに行ったものですから。

その辺がこの中で、町が小さいので、皆さん、町民の声が聞こえて、いろんなメニューをラインナップとして充実させることとして取り上げていけるということであるかもしれないので、あまり言い過ぎる気もないんですけど、そういうことを考えた上のというか、そういうことができる、していくと打ち出すというか、町民にもわかりやすく出すということも必要なことだと思います。

そういうことをやりながら出生数の担保というのをしていっていただきたいと思います

し、さっきのオンデマンドとかは非常に人気があって、成功していると思うんですけども、やっぱり日々変わって、1,000円券がなくなった途端にどかっと下がるみたいなことは、ちょっと残念なことになってしまうので、さっきどこかにPDC Aサイクルと書いてありましたが、その部分を上手に、しかも新しいというか、少しずつでもいい方向へ、何か新しいものを打ち出しながら、31年という目標値に向かって、できるだけ高いレベルでやられるようにするようなシステムに、制度にしていきたいなと思います。

以上です。

【事務局】 ありがとうございます。

【杉本座長】 このオンデマンドバスをやめてしまう理由は何ですか。何かご説明があれば。

【西郷委員】 1,000円事業をやめるだけじゃないんですか。

【事務局】 1,000円事業をやめるということです。

【西郷委員】 1,000円あげるのをやめるだけで、来年もやるんですよね。

【事務局】 やります。もちろん今もオンデマンドバスは走っておりますので。

【西郷委員】 お試し前払いというのだけがなくなるだけですね。

【事務局】 そうです、はい。

【杉本座長】 非常に予算がかかっているんですね。

【西郷委員】 お試し前払い券。

【杉本座長】 じゃなくて、オンデマンドを動かすこと自身の。

【西郷委員】 そうですよ。

【杉本座長】 その利用人数と、かかっている費用を割ると、結構1回当たりの費用が高いんですよ。

【西郷委員】 つまり、かなり税金を投入しているということですよ。

【杉本座長】 そうです、そうです。だから、ほかの市で考えれば、もうちょっとボランティア的な車を、ボランティアの人が運んであげるとか、そういう仕組みも入れていかないと課題があるというのと、かかっている費用というのはコースの問題もあるので、どこを回っているかという。利用率を上げて、たくさん、大勢の人に使っていただければ、こういった施策にも意味があると思いますけど、あまり高いとタクシーで行っていただいたほうが安いということになってしまうので、その辺はやっぱり見直して、次の戦略を考えていかないとだめでしょうという話はしましたね。

【西郷委員】 はい。

【杉本座長】 無料券を配付したときだけたくさん乗るということではないと思うんですね、きっと。

【西郷委員】 オンデマンドは、もう川崎なんかはほんとに、川崎ですら僻地があつて、ものすごく要望しているんですけど、何度もチャレンジして、なかなか実際には動かないという、一部住民は怒り狂っているという状況で、その一方で、稲城、町田あたりの東京都下はものすごく走っているという。財政的な問題も相当あると思うんですが、中井町は結構ざくざくなんですかね、ちょっとわかりませんが……。

【杉本座長】 中井は駅がないので、やっぱりそういう意味では。

【西郷委員】 需要は高い。だから上手に、やっぱり赤字に、つまり税金投入をいかに少なくしつつ利用率をすごく上げるかというのは、常にものすごい問題にどこでもなっているんで、なくならないように頑張るといふことで、ある程度払うことはしようがないという考え方との兼ね合いがすごく重要になりますよね。

今度、町内全体だと、あそこばかりとかという話も出てくるわけですよ。うちにも回せとか、わかりませんが、そういう話との兼ね合いが非常に難しくなると思うので。

ただ、非常に必要なことだと、どこでも必要性が高いと思われるので、ぜひ上手に、そういうことと言えば、駅がないということで、中井方式ぐらい、みんなに示せるぐらいにいいことを考えられればすばらしいなと思いますけれども。

【瀬戸委員】 これ、アンケートをとっているということですけど、内容とかは公開しないんですか、結果。

【西郷委員】 アンケートをとってましたっけ。

【瀬戸委員】 配付の際はアンケートに協力と書いてあつて、これ、よくわからないんですけど。

【西郷委員】 なるほど。

【瀬戸委員】 アンケートの協力依頼していたんだったら、その結果を軽く公表したらどうかと言っているんです。

【事務局】 公共交通会議のほうで報告させていただいて、会議自体は公表することになっておりますので、ホームページ等で公表させていただきます。

【杉本座長】 内容はわからないんですね。

【事務局】 すいません、今資料を用意していないので、申しわけございません。

【瀬戸委員】 相当赤字だという話を聞いていますので、その辺をよく考えないとまずいと思いますね。

【西郷委員】 ただ、値上げすると、あっという間に利用者が減ったりとか、オンデマンドバスの問題はほんとに難しいみたいなので。減っちゃうと、ますます赤字になってしまつてという、ほんとに経営的な視線が重要なようなので、頑張ってください。やっぱり高齢化でどうしても必要な方もどんどん出てくるという状況下で、どうやっていくかというのが課題だと。

【杉本座長】 テルモさんとかブルックスさんは、企業的にそういう、通勤用のバスとかは運行されているんですか。

【平野委員】 いや、うちはしていませんね。

【杉本座長】 そうですか。テルモさんは。

【大槻委員】 私どももしていないので。ただ、やっぱりスケールはちょっと合わないところがあって、むしろ一緒に考えると一つなし遂げられるぐらいのスケールなんじゃないかという気がしますけど。

【杉本座長】 今は、皆さん、交通的には既存の交通機関で通勤されて。

【大槻委員】 そうですね。公共交通機関もかなり利用させてもらっているのです。

【杉本座長】 それで問題はないですか。もっとこうしてほしいとか。

【大槻委員】 やはり便を考えると、多分直通バスが欲しいというのは当たり前なんですけれども、これを、全然スタディーしていないんですけれども、有効な利用の仕方はあるはずで、企業と社会の共存型というのは多分あるんじゃないかと思うんですけど。

【杉本座長】 自由が丘商店街というのはてんぷらバスが走ってしまつて、バス停を売っているんですね。お金のあるおばあさんが、自分の家の前にバス停を置くんです。病院とかを全部回ってくれるので、タクシーを使うより、1年間ずっと自分の家の前にバス停がある。燃料は全部、家庭のてんぷら油をただで回収して、てんぷら屋さんとか商売をやっている人は有料で、それで燃料を確保している。それを回すというやり方をしているんですけど。

【西郷委員】 どこですか、それ。

【杉本座長】 それは自由が丘商店街。

【西郷委員】 あ、自由が丘。

【杉本座長】 東海大にもてんぷらバスはあるんですけど、そういう形で民間からもお

金を出資してもらってやっていくという。あそこは商店街が非常に狭いので、車で来られると困るのでパーク・アンド・ライドを推進しているんですね。ですので、その駐車場を含めてぐるぐる回っている。利用の仕方がちょっと違いますから難しいとは思いますが、やはり何か考えないと、ただバス会社に頼んで、運行してくださいというのでは、ちょっとやっぱり違う気がしますね。

【西郷委員】 いずれ、赤字だと。

【杉本座長】 そうですね。ぜひその辺も検討して、31年の目標に向かって知恵を出していかないと改善できないと思いますので、よろしくお願いします。

ほかにありますでしょうか。

では、時間もありますので、その次の議題に移りたいと思います。(3) 地方創生加速化交付金実施事業についての概要を事務局から説明いただきます。

【事務局】 続きまして、加速化交付金実施事業の概要等についてということで、資料3-1をごらんいただきたいと思います。

地方創生加速化交付金実施事業の概要ということで、後ほど詳しくご説明、ご報告等をさせていただきますけれども、概要といたしまして、国の10分の10の補助ということで、平成27年度の補正予算を平成28年度へ繰り越し、現在、事業を実施しているものでございます。地方創生、一億総活躍社会の実現に向けた緊急対応策として、地方版総合戦略に位置づけられた先駆的な取り組みを支援する地方創生加速化交付金の交付ということで、中井町におきましても交付対象事業の採択というものを受けてございます。受けた中で、平成28年度につきましては、次にご説明します3つの事業を実施してございます。

まず、事業Iといたしましては、首都圏から1時間足らずの田舎町、里都まちなかい魅力創生プロジェクトということで、こちらのほうの総事業費が7,630万ということです。

1つといたしましては、地域の自然、多品種農生産物、立地企業、人材等を活用した里都まちブランドづくり、販路開拓などを軌道に乗せるための取り組みを進める里都まちブランドプロジェクト。

また、2つ目といたしましては、スポーツ環境にすぐれた町の特徴を生かして、町民・地元企業と連携し、スポーツを通じて交流人口を増加させ、地域の活性化につなげる取り組みを進める里都まちスポーツプロジェクトという2つのプロジェクトを立ち上げ、現在行っております。

また、中央公園拠点整備事業ということで、こちらの加速化交付金につきましては総事

業費の2分の1までハード事業が認められています。そういうことから、今、一番集客力の高い中井中央公園に拠点を整備して、各プロジェクトの拠点として位置づけた中で、中央公園利用者にとっての憩いと交流の場となる施設を整備して、中井中央公園の魅力を向上させ、スポーツ施設利用者の増加と交流人口の増加に資する取り組みを進めてまいります。こちらは町単独で行っております、首都圏から1時間足らずの田舎町、里都まちなかい魅力創生プロジェクトになります。

裏面をごらんいただきたいんですけども、2つ目の加速化交付金対象事業といたしましては、神奈川県、県西2市8町の広域連携事業ということで、未病の戦略的エリア、「未病いやしの里」構築事業という事業を実施してまいります。こちらのほうは未病を改善する健康生活普及促進事業ということで、健康測定機器等の購入であったり、栄養、運動等の講習会の開催を行ってまいります。

なかい健康づくりステーションというものがあるんですけども、こちらが平成28年4月に県の未病センターということで認証を受けました。未病を改善する取り組みを、そこを拠点として現在進めてまいります。

また、事業Ⅲということで、あしがらローカルブランディング推進事業は、足柄上郡、1市5町になりますけれども、南足柄市と上郡5町での広域連携事業になります。こちらの主な目的といたしましては、あしがらエリアの知名度、イメージアップ推進事業ということで行ってまいります。

主な内容といたしましては、ローカルブランディング戦略の策定、あしがらのプロモーション動画の作成、地域版旅行情報誌の発行など。また、足柄上地区内であったり都心におけるあしがらPRイベントの開催に向けた事業を進めているところでございます。

また、こちらのほうの町単独事業のエントリーに当たりますと、座長である杉本先生にご協力をいただきながら、ご指導いただき、採択を受けることもできましたので、先生、いろいろありがとうございました。

また、実施体制を含めまして、資料3-2によりまして、少し詳しく説明をさせていただきたいと思っております。総合戦略平成28年度取り組み概要ということで行ってまいります。

1枚おめくりいただきますと、先ほど説明いたしました人口ビジョン、創生総合戦略の説明という形になってございます。

2ページでございますけれども、今回、中井町総合戦略に掲げる基本的戦略1の中の里都まちブランドプロジェクト、また、基本的戦略2の中の里都まちスポーツ・プチツーリ

ズムプロジェクトの中のスポーツプロジェクトということで、今回、加速化交付金を活用した総合戦略、地方創生事業に取り組んでいるところでございます。

1枚おめくりいただきたいと思います。こちらですけれども、里都まちなかい魅力創生プロジェクトの概要といたしましては、平成28年度につきましてはブランドプロジェクト、スポーツプロジェクト、あと拠点施設づくりということで進めてございます。

下に実施体制図がございますけれども、ちょっと見ていただきたいと思います。まず、里都まちなかい魅力創生プロジェクトの実施体制といたしまして、本日開催しております、なかい戦略みらい会議がございます。

先ほど、次第と同じところに部会の設置要綱をつけさせていただいてございます。次第から3枚目になりますが、この会議の設置要綱がございます。その中に、皆様の所掌事項として、総合戦略の策定に関する事、ビジョンに関する事、総合計画の策定に関する事、中井町におけるまちづくりに関する事ということで所掌事項がございます。

また、第6条におきまして、部会ということでございます。「戦略会議は、その所掌事項に係る専門的事項を分掌させるため部会を置くことができる」という規定を活用させていただいて、中井町におけるまちづくりに関する事ということで、総合戦略を推進するためのプロジェクト部会というものを設置させていただいてございます。

その中で、次のページになりますけれども、みらい会議部会設置要綱ということで、総合戦略に掲げる基本的戦略のプロジェクト実現に向けた取り組みが、円滑かつ効果的に遂行されるよう協議するとともに、なかい戦略みらい会議の求めに応じ必要な調査・研究をするということで、2つの部会を設置させていただき、現在のプロジェクトを進めているところでございます。

ですので、みらい会議の設置要綱に基づきました、実施体制図に戻っていただきますと、里都まちなかい魅力創生プロジェクトという中に、里都まちブランドプロジェクト部会、里都まちスポーツプロジェクト部会ということで部会を設けさせていただいて、一体的に魅力創生プロジェクトを進めてございます。

また、アドバイザーという形になりますけれども、プロジェクトに関しましては杉本先生等のお力をいただき、現在、プロジェクト、拠点整備を進めているという形になります。

本日、里都まちブランドプロジェクト部会、里都まちスポーツプロジェクト部会の事務局でございます環境経済課と地域支援課に、この会議に参加しておりますので、これまでの部会の概要、経過をご報告させていただきたいと思います。環境経済課からお願いいた

します。

【事務局】 皆さん、こんにちは。里都まちなかいブランドプロジェクトの事務局をしております環境経済課の石井と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、部会の概要及び経過のほうを報告させていただきたいと思いますが、参考資料1、A4の紙1枚になりますが、そちらをごらんいただきたいと思います。そちらに里都まちなかいブランドプロジェクト部会概要及び経過が記載されているかと思います。

部会の設置目的に、先ほどお話にありましたが、総合戦略のプロジェクト実現に向けた取り組みを行うとともに、なかい戦略みらい会議の求めに応じまして必要な調査・研究をする部会と認識してございます。名前にありますとおり、特産品、ブランドの開発に関すること、それに伴う町のPR、また、地域経済の活性化を図ることがこの部会のテーマであると思っております。

そのような中、部会ではこれまで2回、既に会議を行っておりますが、その内容も含め、主に協議・検討した内容につきましては、記載のとおり、まず1つ目に、里都まちブランド戦略の策定に関することがございます。こちらでは、地域ブランド確立のあり方ですとか、あるべき推進方法の方針等に関することとお話しし、検討してございます。

2つ目に、ブランド開発支援制度、認証制度の構築に関することということで、ブランド開発に対する補助制度を確立するために、そのことについて話し合っております。

3つ目に、リーディングプロジェクトの自走化支援に関することで、推進している事業が継続的に取り組みが実現できるようなことも視野に入れて話し合いを進めてございます。

4番目に、セミナー&ワークショップの開催に関することということで、この中では、6次産業化の専門家等を招いて、内容を広く事業者等に行き渡らせるために、セミナー等を開催することを検討してございます。

このような内容を、今、部会員10名、委員のほうを選任いたしまして行いました。部会長には、学識経験のございます、株式会社パーティ・フーの代表取締役であります石井様を招きまして行っておりますが、石井様は企業のコンサルタント等を中心に活動なさっております、女性目線の事業推進等にたけていらっしゃる方でございます。また、福島県の国見町、企業等でもこういった事業に携わっていらっしゃいます。副部会長には、町内のことをよく知っているということで、農協の中井営農経済センター長の西村様に副部会長を務めていただいております。

部会内容につきましては、2回行っておりますが、7月に第1回の部会を開催いたしま

した。こちらで部会長、副部会長を選出するとともに、この戦略についての概要を皆様に説明させていただいております。

第2回は8月24日に行わせていただきました。こちらでは、ブランドを立ち上げていく上で、ブランドはどうあるべきかというようなことを含め、ブランドコンセプトの検討をさせていただきます。また、推進していく施策になります開発支援制度の内容について検討させていただいております。

第3回は明日、28日の予定ではありますが、そのコンセプト、開発支援制度の構築について固めていきたいと思っておりますし、また、今後のセミナー等の開催についても検討していきたいと思っております。

この制度の構築が整いますと、表の右欄になりますが、施策ということで、実際に開発支援制度につきまして、事業者の募集を開始していきたいと思っております。概要的には、中井町で生産された1次産品ですとか、原料に中井町産のものが1種類以上あるような加工品、中井町をPRするような工芸品、そういった中井ブランドを求めていきたいと思っております。

なかなか簡単に、計画書につきましても、やはり先々を考えた計画を練っていただきたいという趣旨も込めまして、募集のときに提出していただく資料につきましては、商品の内容以外にも市場性や安全性、販路の関係、地域への貢献性と、ちょっと細かな内容まで検討した上で申請をしていただき、その内容を、専門家を交えた審査会を設けまして、支援の実施を図ってきたいと思っております。

事業は2月末を予定しておりますが、それまでの事業実施を考えておりまして、3月に第4回の部会を予定しておりまして、ここで開発支援制度に伴った事業の実績報告ですとかブランド戦略について検討する予定になっております。

ブランドにつきましては以上です。

【事務局】 私は、地域支援課でスポーツプロジェクトの担当をさせていただきます山本と申します。よろしくお願いたします。

私のほうからは、スポーツプロジェクトの部会の概要及び経過につきましてご説明をさせていただきます。お手元の参考資料2をごらんいただければと思います。

当部会におきましても、設置目的につきましては先ほど環境経済課からご説明させていただいており、当部会につきましても、総合戦略の基本的戦略を実現するための取り組みを行うための部会となっております。

部会の主な協議・検討内容といたしましては、中井町スポーツ推進計画の策定、2つ目といたしまして、里都まちなかいスポーツイベントの開催、3つ目といたしまして、総合型地域スポーツクラブの設立に関する事、その他、里都まちなかいスポーツプロジェクトの推進に関する事と、大きく4つを掲げてございます。

部会の委員につきましては、当部会も10名という形になってございます。構成員につきましては、お手元の資料の3-2の4ページの右側部分に当スポーツ部会の構成メンバーが載っておりますので、ごらんいただければと思います。

部会長は、構成メンバーの一番上に記載がございませう白鷗大学の藤井先生をお願いしてございませう。副部会長におきましては、中井町の体育協会の会長であります植木氏をお願いしてございませう。

当部会におきましても、7月と8月に第1回、第2回と、既に会議のほうを開催させていただいております。第1回、第2回ともに、町の推進計画、スポーツイベント、または拠点整備等について、部会の皆様には議論いただいておりますところでございます。第2回目につきましても、今回、計画策定または総合型地域スポーツクラブ設置のための取り組みに向けた町民の意識調査というものの実施を考えてございませう。その内容等について、第2回等で議論をいただいておりますところでございます。

第3回につきましては、来月、10月13日に開催を予定してございませう。このときには、こちらに記載がございませうとおり、計画、スポーツイベント、また骨子案等について、部会の皆様にはご議論をいただく予定でございませう。

その後、第4回、第5回と、12月、2月程度が会議を設けられればということで現在のところ考えてございませう。

今の部会の進捗状況でございませうが、先ほどお話をさせていただきました意識調査につきましては、今、意識調査票のほうはまとまってございませう。これを今月中から来月の頭にかけてまして、無作為の町民約1,500名に意識調査票を送付させていただきます。1,500につきましては、町民約1万とした中で、5%である約500程度の回答はいただきたいという中で、通常、町等でアンケートを実施する場合、回答率が3割から4割程度という中で、1,500部配付をさせていただいて、そのうちの3割3分、約500程度を回収できればということで、発送させていただく予定でございませう。

また、本年度、交付金を利用して行いますイベントにつきましても、10月上旬をめどに、プロポーザル形式でイベントの内容等を踏まえた中で、事業者の選定をしていければ

ということで、ただいま、要項、仕様書等を作成している段階でございます。こちらにつきましても、逐次、部会の委員の皆様にご協議いただきながら、イベントのほうも進めていく予定でございます。

本部会の事業につきましても、当然、今年度のみ単年度事業ではなく、スポーツ推進計画におきましては、当然、総合戦略におけます交流人口または定住人口増を見据えた中でスポーツ推進計画の策定、また、その中では、今後の人口増を見据えて、総合型スポーツクラブをいかに中井町のほうに設置をしていくかというようなものも含めて、総合推進計画を策定してまいりたいと考えてございます。

総合型スポーツクラブにつきましても、今年度設立というわけではなくて、今年度から検討を始め、平成31年に総合型スポーツクラブの設置ができればということを目標に、この部会を継続して開催させていただいて、設置に向けて話し合いを進めていきたいと考えているところでございます。

簡単ではございますが、説明は以上とさせていただきます。

【事務局】 それでは、引き続きまして、資料3-2の7ページをごらんいただきたいと思います。先ほど概要のほうでお話をさせていただいたんですが、両プロジェクトの拠点となる施設の整備ということで、里都まちスポーツプロジェクト、ブランドプロジェクト、こちらの拠点とした中で、小売拠点施設を中央公園に建設する予定となっております。こちらにつきましましては、中央公園内にカフェ機能を持った交流拠点施設を整備する予定となっております。

施設の位置につきましては、8ページの写真にございますけれども、ご存じかと思えますけれども、パークゴルフ場の横の駐車場を利用して施設を建設する予定であります。

1枚おめくりいただきまして9ページになりますけれども、施設のイメージ、あくまでも予定という形で書かせていただいておりますけれども、交流拠点施設というものは、自然環境豊かでスポーツの拠点である中井町随一の集客力を誇る中央公園に2つのプロジェクトと連携して、次の3つの役割を持たせる施設としたいと考えています。スポーツを楽しむ方や公園利用者の交流できるようなスペース、また、スポーツや遊びの風景、富士山であったり、丹沢の眺望を楽しめるようなカフェ、イベントであったりワークショップ等ができるような空間、使い方というものも考え、交流拠点という役割を持たせたいと考えています。

また、ブランド発信拠点ということでは、里都まちブランドプロジェクトで、里都まち

ブランドの試作、開発を今後行う予定となっております。そちらの展示と販売の拠点、また、ブランドの発信拠点ということで、ブランド発信拠点を考えてございます。

また、癒やしの拠点ということで、ご存じでしょうか、豊かな自然環境というものがあります。そちらの中での交流拠点、また、子どもたちも安心して休憩できるようなキッズスペースというものも施設に機能を持たせたいと思っている。また、子育て世代にも安心して憩うことのできる場ということで、キッズスペースとあわせて授乳室等も完備して、子育て世帯に優しい癒やしの拠点というものも考えてございます。

また、運営についての協議ということで、10ページになりますけれども、こちらのほうは今現在の施設の利用イメージということで、図面をつけさせていただいておりますが、鋭意実施設計中でございますので、あくまでも案という形にさせていただきたいと思っております。

北のほうに、先ほどお話しした子育て世帯にも優しいということで、キッズルーム、カーテンという、子どもの広場も見えるキッズルームというものを備えたいと考えています。

また、カフェということでは、公園利用者の憩いの場、ブランドの提供であったりというものを考えてございます。

また、トイレにつきましては、広く魅力あるトイレということで、女性に優しいトイレであったり、また、障がい者の方にも安心して使っていただけるようなみんなのトイレなどを設置して、魅力あるトイレづくりを進めております。

また、カフェに出せるような提供品の厨房ということにおきましては、喫茶店程度、ドリンクと軽食等を提供できるような程度の機能の厨房というものを備える予定でおります。

設計、施工で今、作業を進めているところでございますけれども、29年3月の完成を目指して、今現在、作業を進めているところでございます。

また、施設の運営につきましては、公設民営という形で、施設の運営のほうを民間のほうに委託したいと考えてございます。また、町の基本的スタンスといたしましては、施設運営の一括した管理も含めました民間活用ができないかということと、施設管理者の自由な発想の施設運営、また、収益性であったり持続性、安定性を求められるような施設運営というものも町の基本的スタンスということで考えてございます。

また、カフェ部分につきましては、先ほどもお話ししましたがけれども、里都まちブランドの展示販売であったりということで考えてございます。

現在、こちらの委員さんでもございますベルマーレ様でありましたり、ブルックス様に施設の管理運営方法等につきましてご相談申し上げて、ご協力いただけないかということ

でお願いをしてございます。もしよろしければ、ご意見をいただけるようであればお願いをしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【杉本座長】 では、今、第3の地方創生の、現在進めています加速化交付金の事業の概要について、たくさん発表がありましたので、なかなか理解しにくいところもありますけれども、ご意見がありましたら、よろしく願いします。

【湯川委員】 いいですか。中井の中央公園の施設設備の話なんですけれども、実は私、小田原市民で、この会議に出るようになって初めて中央公園に行ってみたんですね。行って見たところ、すごくいい施設なんですよ。私、子どもがいて、まだ小さい子どもなので、遊ばせる場所が必要になってくるので、家族を連れてみんなで行って、駐車場が広いので、そこで車をとめて、子どもの遊具だとか、そういうのもいろいろとたくさんあったので、すごく楽しいところなんです。子どももすごく喜んでくれているような施設だったんですけれども、何分、PRが足りないと思うんですよ。今まで全然知らなかったもので、言われて初めて行って見て、こんないいところなんだというところがあって、うち奥さんから、いわゆるママ友と言っているお母さんたちのグループで一緒に行ってみたら、やっぱり楽しいということで、それからちょくちょくと遊びに行くようなことが出てきたんですね。

水辺の広場だとかそういうところで、夏なんかもそこで遊べるだとかでちょこちょこ行くようになって、そこから近くの駐車場を利用してイベントをされていたりとかあるんですけれども、フリーマーケットだとか、そういうのをしていたみたいなんですけれども、そこに行くようになって初めて、こういうのがあるのねというのが出てきているのが実情だと思うんですね。

ですので、こういう交流の拠点をつくるということになれば、それなりにPRする場所が必要なんじゃないかと思うんですね。例えば今、ここの施設をつくりました、そこでカフェができますよというふうに言っても、利用してくれる方というのは、1回そこに行つて、そういうのがあるのねという方は利用すると思うんですけれども、新規の方ってなかなか、そこにあるということに気づかないので、そのもの自体を例えば町のホームページだとか、そういうところでPRする、もしくはお子さんがよく集まるといいますか、例えば幼稚園だったり、お母さんたちが集まるような場所のところでお話をしてもらって、そのところから集客をするというのが必要なんじゃないかと思うんですね。

あとは、ちょっとこの中のところでは入っていませんけれども、よく人が集まるという部分に行けば、犬を飼っている方たちというのはすごく交流が大きいので、ドッグランだ

とかを設置すると、ここら近辺ですと、松田町の寄のところにあるくらいで、それ以外のところってあんまりないんですね。あとは山北の奥のところにあるんですかね。駐車場ももちろんあって、犬も連れてこられるということであれば、その部分のところだけ結構利用される方は多いので、散歩をさせるという部分でも環境的にかなりいいところだと思いますので、そういうところ自体も集客としては見込めるんじゃないかと思うんですね。

ただ単に、そこのところで憩えますよ、休憩ができますよということになると、休憩は何のためにするのかというのが当然出てきますから、スポーツをしている方たちが休憩するという場所であれば、そこのところはそれでありだと思いますし、そうでなければ、スポーツをやらないということであれば、そこに目的をつくらないと、来る人がいないんじゃないかと思います。

ですので、どういうことを目的に集まるかというのを考えて、そこのところの施設を整備されたほうが、もうちょっと効果的になるんじゃないかなと思うんですけども。

【杉本座長】 事務局のほう、どうですか、それに対して。

【事務局】 そうですね。今、いろいろ、周知方法等もご意見いただきました。確かに周知不足というのもありまして、先生のほうからも、もう少しPRが事前に、今やっている内容も含めて必要だというご意見をいただいていますので、今やっている状況も含めて、今後は皆さんに発信して、こういうものをつくっている、こういう事業を進めさせていただいている、今のこのプロジェクトを進めさせていただいているということで、PRをしていかなければいけないなということで、進めさせていただければと思います。

それから、確かにこちらの施設、交流を目的としてカフェ、そういう機能も備わったものでということで、PRというんでしょうか、拠点整備をさせていただいておりますけれども、今のお話ですと、目的をもう少し明確にしたほうがいいんじゃないかというご意見もありましたので、その辺ももう少し発信できるような中での表現的なもの、内容的なものも詰めていかなければいけないなご意見いただきましたので、その辺も含めて今後、PRも含めて発信もしていきたいなと思いますので、また今後、調整させていただければと思います。

【杉本座長】 あと、担当課の方のほうからご意見いただきたいんですけども、どういう方向でやっていらっしゃるのか。担当課の方、先ほど発表していただいた方。

【事務局】 中央公園の施設の中はまち整備課のほうで担当していますけれども、今、指定管理者という形で、指定管理者のほうにその辺のPRだとかいうところもやってはも

らっています。

先ほど出たドッグランについてなんですけれども、この辺については議会等でも質問があって、設置についての検討をというような話もありました。ドッグランをつくるに当たっては、やはり環境整備をしなければいけないと思っています。鳴き声だとか、どうしてもその辺のところもありますので、中央公園の中にとすることは今、考えていないということで回答はさせていただいています。

PR不足というところなんですけれども、町のホームページ、それからSNSを使っての周知というところで、今できる範囲の周知はさせていただいていますが、なかなかその辺が伝わり切れていないところもあります。今、利用されている方で、フェイスブック等を使って周知をしていただいているところもあるので、その辺でまたどんどん広まっていけばいいなと考えています。

以上です。

【杉本座長】 じゃ。

【西郷委員】 今の施設はちょっと期待できるとは思っているんですけども、いわゆる公園課とか公園整備課とかがやると、どうしてもハードのほうが優先になって、町民がほんとうに欲しいもの、ニーズが弱かったりとかしがちだと思うんですね。もちろん指定管理者にやらせるというのが必ずしもいいかどうかわからないですけども、つまり、どういうふうにするかにおいて、できるだけ町民のご意見というか、特に今日傍聴して下さっている方、すごくいいなと思っているんですが、新しい新住民の女性のお母さんとか、そういう方たちが、例えばさっき言った子育て支援とブランドというのは1つの大きな課題なわけですよ。そういうものが合体するような施設で、町民が使いやすく、しかも交通利便性のこともさっきありましたけれども、何か食事ができるいいカフェができれば、例えば夕方みんな、通勤の帰り、保育園の帰りにそこで食べられるみたいな、そういう一気にいろいろな問題を解決するような中心的な役割を担えるような、つまり、スポーツイベントでしたらもちろんご飯が食べられますというはいいんですけども、例えば農協が市も立てるけれども、逸品も売っているとか、そういういろいろな複合的な要素を、私は単によそ者の頭で言っているだけなので、ほんとうに欲しいものが何なのかみたいなことをもう少し練って、いいものに。

つまり、私も何度か行ったことがあるんです。町長が非常にあそこはいいと言うから、行って、ほんとうに富士山がきれいだしいいと思うんですけども、閑散としているとき

は閑散としている。いっぱいときは高齢者がいっぱいいるみたいに私は受けとめておりまして、その辺で、もうちょっと子どもも一緒にとか、別に子どもはあのグラウンドでやらせる必要は全然ないと思うんですけれども、何かそういうことをちょっと視野に入れて、町民の方が欲しい、そんなのがあれば行けるよねとか、逸品にしても、何となくやる主体が大丈夫かなというか、公募して、はい、やってくださいと言ってうまくいくか、ちょっと心配しているんです。

この中にある牛乳とかポッキン漬けが1つ、頭が出ているのであれば、例えばその牛乳を使って、ブルックスさんのコーヒーと、コーヒーアイスクリームとかって、素晴らしいものを、町民の女性の人たちがこういうのがいいとか、子どもにも食べさせられるとか、そういうことを何かコーディネートしてつくり上げるような主体、実施主体が今度、途中からいなくなっちゃっているわけですから、そういうものをつくってほしいなと。例えばポッキン漬けのショウガがそんなにいろいろあるのであれば、ショウガアイスクリームだつてつくっているところはいっぱいあるわけですね。そういう何か、こうだったら、ああだったらということをブレンストーミングできるような町民の場を持って、小さな公園でも地域の人が集まって、ボール遊びをするのかしないのかって、老人と子どもでかんかんがくがくみたいなこともあるわけですから、そういうことをして、逆にPRを外にしなくても、そうやって意見を言いに来てというのでも逆にPRになるというふうに思いますので、何かそういう仕掛けをぜひ私はしていただきたいなど。後から来て言っているのも、時間的に厳しいとは思いますが、そういうふうに思います。一応、これはあくまで意見です。無理でしたら、ちょっと聞くだけで大丈夫です。

【杉本座長】 どうですか、事務局は。

【事務局】 こちらの施設なんですけれども、先ほども10ページの図面で、見にくいかもしれないんですが、建物の中に子どもさんが保護者の方とこちらに来ていただけるような形で、キッズルームということで、右端のほうに設けさせていただきたいということ考えさせていただいております。こちらのほうは、小さいお子さんだけでなく、やはりトイレも左下のほうにありますけれども、充実した中で、いろいろな方に、こういうところに来れば、こういう素晴らしい建物があるよというようなイメージの中で、魅力あるトイレとか、そういうのも含めた中で、若い女性も含めて、お子さん連れ、そういう保護者の方と来ていただくような形で、今、設計をさせていただいているという状況になります。また、厨房関係ということで、先ほどお話しいただきましたけれども、今現在、いろ

いろな方に声をかけさせていただいて、ご意見をお聞きした中で、公募というんでしょうか、募集させていただくような形で、運営していただける方を今、調整させていただいているという状況の中で、今後も早目に整理をさせていただいて、入っていただける方、そういう方々と、先ほど言われました地元の企業さん等にいろいろご協力していただけるというか、ご指導、いい知恵を出していただけるような形の中で、今後も進めさせていただきたいということで、今、動かさせていただいているというか、事務処理をさせていただいている状況になります。

以上です。

【杉本座長】 はい、どうぞ。

【瀬戸委員】 まちカフェのほうでちょっとこの話が出まして、そこで出た意見がありまして、ぜひこれは言ってきてくれと言われてます。まちカフェのほうでいろいろな要望というか、夢やアイデアが出たんですが、ほとんどそれはあまり取り上げられていないというのが現状です。例えばこの建物に関しても、いろいろな要望があった。ところが、いつの間にか設計されちゃって、これによれば、29年3月にできるという話だと、議論をこれからしましょうという話はほとんどないと思うんですね。町民の要望を全然聞かないでつくったんじゃないかと。そんなものは困るというふうに言われています。だから、可能な限り吸い上げて、やる時間を設けて、設計変更してやってもらいたいと思うんですね、都庁のあれじゃないんだけど。

もう一つ、この地図を見て思ったんですけれども、大体、第三セクターでつくったものの失敗というのは駐車場がないんですね。ここにこんなものをつくっちゃったら、こんなものと言ったら失礼ですけれども、駐車スペースがぐっと減りますよね。大丈夫かなと思うんですね。今でさえ大きなイベントのときは、とめるところがなかなかないわけですから。大阪の千里ニュータウンではいろいろつくったんですよ。欲張って建物をいっぱいつくったら、車をとめるところがないんですね。それで、不便だと。結局、お客が来なくて、実質機能しなかったという例が、昔の話ですけれども、ありますので、その轍を踏まないように、足については十分な確保をできるようにすべきだと思いますよ。これじゃどうしようもないと思いますよ。

【杉本座長】 具体的にどんな施設が欲しいという……。

【瀬戸委員】 シャワールームとかが出ていましたね。

【杉本座長】 シャワールーム。

【瀬戸委員】 運動した後のね。

【杉本座長】 ほかは何か。

【瀬戸委員】 これだとカフェだけで、ほかは私はわかりませんが、要するに、いろいろな意見を聞いてほしいと言っていましたね。ただ、このスケジュールだと厳しいのかなと思って、私の心配したとおりのことになっているような気がするんですね。ちょっと間に合わないのかなと思いますけれども。

【杉本座長】 では、事務局のほう、よろしくお願いします。

【事務局】 事務局のほうから。確かに、当初、シャワールームということも検討をさせていただいていた経緯がございます。その中で、先ほど来、事業費の関係もありました。その中で、面積的なものもありまして、交流人口の増を含めた中で、中央公園に来ていただいた中でということで、シャワールームとかロッカールームも当初予定ではあったんですけれども、面積的なものも含め、また、金額的なものも含めて、申しわけありませんけれども、やむなく今回は図面のほうからなくなってしまっているというか、計画の中から落ちてしまっています。今後、そういうものも含めた中で、施設的に、時期とかそういうものはわかりませんが、また必要に応じてそういう体制を整えば、また増築等が可能なような形の中で採用させていただいて、今、設計をさせていただいているという状況もありますので、また今後の中で検討させていただければということで、ご理解いただければと思います。

また、駐車場の関係ということで、確かにこちらの建物ですと、160平米弱ということで今、予定をさせていただいておりますけれども、周囲も含めた中で、5メートル程度、犬走りというんでしょうか、コンクリも周囲に整理されるということも含めると、大分面積的なもの、駐車場が狭くなるというようなこともあります。ただ、駐車場は中央公園にも何か所かあつたりします。また、大きい行事、フェスティバル等もありますけれども、ほかの企業さんの駐車場をお借りしたりすることで対応させていただいておりますので、駐車場の関係につきましては、なるべく駐車場をご利用いただくのもいいんですけども、大きい事業の場合には公共交通機関等でおいでいただくような形の中で、また周知等はさせていただきなさいいけないかなと思っております。

そういう中で、今後も進めさせていただければと思います。

【杉本座長】 では、せっかくですから、眞壁委員、先ほど事務局のほうからご意見というお話がありましたが、総合運動公園のこととか。

【眞壁委員】 しばらく間があいたので、部会のほうには畔柳が出させていただいています。頭の中で過去の経緯と、一回発言したこととは違うところをちょっと整理しながら聞いていたんですけれども、今、いろいろお話とかご意見が出たのはもっともなところで、もともと参考資料にあるように、このなかの戦略みらい会議のベースにあるのは、人口減をとめなきゃいけないということで、僕の理解ですけれども、こちらに来たときに、という話だったと認識をしています。したがって、そのためにどの町も、全国一律の助成ですから、いろいろなことを考えるんですけども、この中井町のインフラの中で、小さな町だから、秀でているものをよりよくしようという優先順位で物事を考えるというふうに整理をされていったように記憶をしています。

その中で言うと、確かにPRも必要だし、当然ですけれども、税金も払っているわけですから、住民の皆さんが一番利益、リターンをもらうのは当たり前なんですけれども、ただ、これは外の人に中井に来てもらおうということで助成金を使っていこうというのがそもそも考えだと。したがって、中井町民も当然喜んで使いながらも、外の人たちが来る。来ることによって、先ほど言われたPRですよ。僕はこういう仕事をしていますから、PRは半端じゃないお金がかかります。今、通常やられていることというのはほとんど業者がやる限界であって、あとは、そこで起きたお祭りであったり、人が交流したことが神奈川新聞さんが書いてくださったり、地方ニュースのメディアに載ったりすることで発信をしていくというぐらいしか、この7,000万というのは、お金があるようで、実は先生は少し言っていましたけれども、お金としてはそんなには使えない額です。という中の積み上げでいくと、スタートの段階、これだけの評価、助成金をいただいたということは、いろいろ横並びで並んだ中では、中身が多分よかったんだろうなと理解をしています。その中で、以降、それが実行されていった中で、こういったカフェができる。

私もつい数日前に図面を見させていただいたんですけれども、いよいよ動く中で、資料を見ると、皆さんの大変なご努力でいろいろなことが書いてあるんですけれども、目的に対しての優先順位を決めなきゃだめだと思っています。何かを同時に理解して、納得してもらうのは大事なんですけれども、特に行政ですから。これをやっていくには、次のステップがあって、また評価をしてもらって、また支援をいただくということにするには、何を優先して、何を後回しにするか、やらないということではなくて。ということ少し整理していかないと、公園のまま、何となく横並びの、全国でやっていることと同じことで、結果的に何の評価もなくぱたっと終わってしまうということが最悪、感じるんですね。す

いません、勝手なこと言って。というふうに、今まで議論を聞かせていただいて思いました。したがって、今、プロジェクトが2つ立ち上がっている中で議論したことの優先順位をどうつけていくかということになると。

この施設自体はカフェということで、カフェの相談もブルックスさんも受けられたかもしれませんが、カフェって非常に難しいと正直思います。我々も市民の支えでここまでのサッカーチームになりましたけれども、飲食には一切手を出していません。非常に難しいです。それが前提でやっていく中で、皆さんの知恵を使いながら、飲食、カフェだけではなくて、人が集うこともやはり考えていかなきゃいけないと。それが何なのかは、すいません、ここでは私もわかりませんが、柔軟に回転をして、町民の方に使っていただきながら、また、外部の方に使っていただく。その価値観は絶対違うんですね、毎日使う人と突然やってきた人。その融合点の中に優先順位を、このプロジェクトの中の人たちがつけていくということはすごく大事だと思います。

そういう意味でいくと、すいません、はっきりした方向性があるわけではないんですけど、というふうにちょっと感じます。おいしいものをつくったら人は間違いなく来ます。ただ、そのおいしいものをつくるコストと見合ったお金を払うのでほんとに来るかどうかと。それと、それが土日だけでは飲食は回らない。普通の平日もおいしいからわざわざ車に乗ってここまで来て、帰り、飲酒運転になるから代行を呼んで帰ってくれるか、そういったことをよく考えないといけないし、この大きさでこの厨房でどこまでできるんだというのがありますから、そういったことは実務をやっている方にももう少しご意見をいただいて、時間がないでしょうけれども、要するにいけないだろうと思います。

【事務局】 ありがとうございます。

【杉本座長】 はい。ブルックスさん。

【平野委員】 そうですね。私も先日初めて図面を見たようなところがありましたけれども、おそらくこの施設自体というのは、多分きっかけでしかないんだろうなとは思っています。ここで何かどうこうというよりも、どちらかというと、少しでも中井町に長時間滞在してもらえるような、そういうきっかけというか、位置づけもそうでしょうし、先ほど瀬戸さんのご意見もあったような町民の方、地元の方にも利用、愛されないと、存続はちょっと難しいと思いますので、そういうところの位置づけとしてコンセプトをどうやっていくのかなというのは、すごく大きい課題じゃないかなと私は認識しています。

ただ、実際、カフェをただやっただけではだめな部分もちょっとあるかなと思いますの

で、そういうところでは町としての情報発信の部分と、それを受けて、実際に中井町はほかにもこういうところがある、こういう公園もあって、こういうところも、こういうイベントもあるというところの中で、いかに町外の人等も含めて接点を持てるかというのがポイントかなというところで見えていました。

ごめんなさい、ちょっと具体的な意見はありません。

【杉本座長】 いえいえ、ありがとうございます。

ほか、どうでしょう。はい、どうぞ。

【柏手委員】 多分これ、中井中央公園を中心にして2つのプロジェクトが乗っかってるんですけども、野球場があって、多目的広場があって、パークゴルフ場とあって、質問なんですけれども、ふだんはこのスポーツ施設はどんな使い方をされているのか。

【杉本座長】 事務局、お願いします。

【事務局】 ふだんというのは平日という意味でいいですか。

【柏手委員】 年間を通じても。

【事務局】 年間通じて。

【柏手委員】 ええ。

【事務局】 年間を通じてというと、パークゴルフ場が来場者は一番多いですね。300人、400人、平日でも来られる。あと、先ほど話が出た子どもさんの遊ぶ遊びの広場、水辺の広場については、夏季が一番多いです。あと、野球場と多目的広場という形で、野球場については土日が中心で、平日は高校生とかが集まってやっているというような状況ですね。多目については、サッカーの大会等が誘致されているので、その辺で、サッカーとか、半面をソフトボールで使ってみたりというような感じで、平日については、スポーツ関係者というのがあまり多くはありませんので、パークゴルフが中心でお客さんが来ている感じですね。子どもの広場についても夏季が中心なのかなというような形で常時は使われているということでございます。

【柏手委員】 野球場なんかは結構立派な野球場なので、本来であれば、何か大会誘致を努力するとか、交流人口を増やすのであれば、カフェは交流人口が増えないと成り立たないという仕組みになっているんですね。あと、もう一つは、これのスポーツ軸の部分が里都~~まち~~スポーツプロジェクトとあるんですけども、ここのスポーツ軸のところ非常に弱いような気がするんです。パークゴルフなんかは平日でも300人、年間を通じると相当数利用されているとなれば、何かきっかけはあるかなという気はするんですけども、

それプラス何か、スポーツ軸の年間を通じての運用のところで知恵を入れていかなきゃいけないんじゃないかなというのは感じました。

【眞壁委員】 利用でいうと、平日の子どもたちが学校から帰ってきた時間帯の部活の活用なんかはかなり多いと思います。そうすると、これはここだけではなくて、日本中のスポーツ公園が抱えている課題だと思う。平日のあいている時間に誰が来るか。それは当然、我々は仕事があるので行けないので、シニアなんですよ。シニアの利用稼働率が大きいグラウンドは昼間も回る。そうすると、そこに向かって何をするかというのは多分、会議の中では語られていると思うんですよ。表記されていますので、全体の利用率でいうと、ものすごく高いと思います、中井町も。先ほどおっしゃったように、結構、実は家族連れのリピーターも多いですし、駐車場も若干減りますけれども、かなり多いほうではないかと。そこはこの次の・・・・・・とかも書いてありますね。その中でもんでいただけたらと。ただ、シニアは車でだんだん来られなくなる世代の人が増えてきて、その辺の対応だと、さっきのオンデマンドじゃないですけども、足の問題ということがあるんですね。

【杉本座長】 ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

では、私のほうからちょっと、部会の話も初めて聞きましたので、スポーツ部会でいうと、町民に意識調査をされるということなんですけれども、緊急性のプロジェクトで、先ほど眞壁委員からも出ているように、選択と集中をしないと短期間に戦略的にできないと思うので、やるなど言っているんじゃないなくて、総合的に住民の意見を聞いて、それからといたら、多分間に合わないと思うんですね。何のために調査をやるの。これは別に地方創生のプロジェクトじゃなくて、町のほうの市民のスポーツ、運動に対する要望についてヒアリングするという調査をされるならわかるんですけども、このプロジェクトの中で、広くただ意識調査をするという意味がない。もっと部会の中で戦略を練って、それに対して意見をもらう。先ほど言いましたように、外から人に来てもらいたい、それを住民の方がどう思うのかとか、そういうのをやらないと、これだけ部会をやっているのに、今日の報告だと、僕は何をやっているんだという感じなんですよ。

それから、プロポーザルをやるのはいいんですけども、条件をつけないでただプロポーザルをしたって、勝手に、全くこの内容を理解できない人が提案してくるわけですよ。そんなやり方はあり得ないですよ。もっと主体的に、町の担当事務局も含めて、部会の中できちっと方向性を出すべきです。それに必要なヒアリングをするべきですよ。だって、

外から来てもらう人の調査をしてないんですよ。それで、どうやって外から来るスポーツ、この活用ができるんですか。逆に言えば、外の人に中井町をどう注目するかというヒアリングをかけたほうが、よっぽど重要なことなんですよ。

【真壁委員】 利用者ですよ、現在の。

【杉本座長】 そうです。

【真壁委員】 どうしてここに来てくれるのか、強み、弱みを。

【杉本座長】 そうですね。例えば東京に僕、事務所がありますけれども、東京で野球大会をやろうと思うと、多摩川のグラウンドの取り合いで、1日社員を1人入れて、抽せんに落ちるともう来年なんですよ。だったら、中井の野球場を借りたほうが確率は高いわけで、そういう需要はあると思うんだけど、そういう調査をしないで、そういうヒアリングを誰かからしないで、ただ、漫然と調査したら、何かそこから結果が出てくるんじゃないんですよ。やはりもっと絞って、必要なこと、戦略に結びつく。この会議でも相当いろいろなアイデアが出て議論されているのに、全くこの部会はそれを前提として議論されていないように思います。事務局の方も非常に事務局然としていて、プロジェクトを推進しているというような気持ちが全然伝わらないですよ。だから、担当部はもっとちゃんと自分の頭で考えてください。僕も明日、別の市に行きますけれども、そこではちゃんと役所の役人が2人ずつプロジェクトの頭について、その人みずからが何かこう書いているんですよ。そのぐらいのことをやるのにこの地域創生の意味があるので、従来の仕事をしているようなやり方をしているんだったら、もう委員会にお任せいただいたほうがいいと思います。

ブランドもそうですけれども、これもコンテストをやればうまくいくというのもおかしい話で、どういうブランドが中井にとって大事かをすごく考えほしいんですよ。きんたろうさんの牛乳、いいですけども、南足柄とか小山が金太郎の聖地で、そのためにこれが入っているわけじゃないと思うんですけども、そういうところならわかるんですけども、そういう形のブランドでいいのかというのをもうちょっと考えてほしいし、もうちょっと住民が持っている中にいろいろなコンテンツがあるんですけども、それを引き出すというのが外のコンサルなんかではできないんですよ。もっと地域のおばあちゃんがつくっているおしこのレシピとか、そういうものを引き出してこないで、新しい地域の魅力が出ていかないんです。よっぽど企業さんは多分、いろいろな調査をされて、商品をつくられていると思うんですけども、地域がブランドをつくるというのは、そういう企

業がやるようなやり方じゃないやり方をしないと、買う人は絶対に魅力がないんですよ。そういう方向で検討してほしいですね、このブランドについては。

ですから、もうちょっと事務局側というか、部会のほうである程度方針を出して、それに合った運営者なり、先ほどもご意見が出ていましたけれども、総合的にいろいろなものを含んでやれるような雰囲気づくりをするということをししないと、地方創生の意味が全くないと思います。ほんとうはそちらにいらっしゃる部会の方たちにご意見を後で聞きたいと思うんですけども、今後、部会の方も入れて議論しないと、ほんとうは意味がないんですね。部会の方たちがもっと主体的にやっていくという、僕はそういうイメージでこの部会ができていいのかと思ったら、何か発注者側の形になってしまっていて、これでは絶対にうまくいかないんです。だから、行政のほうは従来型のやり方を踏襲し過ぎて、形式だけをつくるんじゃないなくて、実質的にプレーヤーをきちっと決め、目標が達成できるような仕組みにしていただかないと、この会議を何回やっても全然意味がないので、そういう体制に見直していただきたいなと思います。これは意見です。よろしく願いいたします。

もう一つあります。(4)をやってからご意見を伺います。では、(4)お願いします。

【事務局】 それでは、(4)ということで、今後の総合戦略の推進についてということで、今、皆様に貴重なご意見をいただき、何が今後のだという話になりますけれども、平成28年度につきましては、現在、加速化交付金を活用した事業ということで進めさせていただいております。また、この事業も一過性のものではなく、もちろん継続的に実施していかなきゃならない事業ということになってございます。今年度、国の地方創生推進交付金、新型交付金と言われるものでありますけれども、そちらの申請は見送らせていただき、加速化交付金事業のほうに取り組んでいるわけでございます。

国のほうにおきましては、平成28年度の第2次補正予算におきまして、地方創生拠点整備交付金というものが創設されることとなってございます。こちらのほうが11月末の申請、1月下旬の採択という形になっています。今年度整備いたします拠点施設というものも、やはり今、ハードの部分、中身のソフト部分というのがありますけれども、なってございます。やはり中央公園の魅力を高めるためには、今年度整備いたします施設と一体となった新たな整備も重要であると考えてございます。ですので、こちらのほうの拠点整備交付金というものに、部会の意見等を交えながらエントリーしていきたいと考えております。町で考えるのは、やはり来園者、スポーツ施設利用者の憩いと交流の場を目標にしておりますので、各部会の意見をいただいた中で、拠点整備交付金につきましてもエント

リーをしていきたいと考えてございます。

また、今年度のプロジェクトの継続実施、さらには、子育て支援策等、基本的戦略3に掲げます里都まち子育て応援戦略などの実現に向けまして、次年度以降の交付金活用に向けた準備も進めていかなきゃなりません。今年度よりの新型交付金からは、地域再生計画というものをつくった中で申請という形になりますので、各総合戦略の内容をいろいろ検討した中で地域再生計画を策定し、次年度以降の総合戦略の推進に向けた作業というものを今後図っていきたいと思いますので、またその節には、戦略みらい会議の委員さんからご意見等もいただきたいと考えますので、よろしく願いいたします。

【杉本座長】 以上ですか。

【事務局】 はい。

【杉本座長】 ちょっとよくわかんないんですけども。

【事務局】 ごめんなさい。資料の1なんですけれども、一番最初にお話しした地方創生関係交付金の概要（イメージ）からのご説明なんですけど、一番左に基礎交付分とございます。こちらが先行型で実施をさせていただいた事業という形で、平成27の補正、地方創生加速化交付金というものが、現在行っております町の里都まちなかい魅力創生プロジェクトであったり、広域連携事業で行っています事業、プロジェクトが地方創生加速化交付金を活用した事業という形になってございます。

28当初、地方創生推進交付金というものは1,000億円という形になってございますけれども、こちらのほうにつきましては、補助率が2分の1ということになってございます。今回、今年度につきましては、先ほどもお話ししましたとおり、里都まちなかい魅力創生プロジェクトの推進を優先的に図るということで、申請を行っておりません。

また、1枚めくっていただいて、3ページをごらんいただきたいんですけども、こちらのほうに平成28年度第2次補正予算ということで、地方創生拠点整備交付金というものの創設が予定されてございます。こちらのほうも国からの交付金ということで、2分の1になります。それで、事業費といたしましては、6,000万から1億2,000万円の事業費で、補助率が2分の1ということになりますので、補助金としましては3,000万から6,000万の事業という形になります。

こちらのほうも事業目的につきましては、未来への投資に向けて、地方の事情を尊重しながら施設整備等の取り組みを推進するための交付金であると。また、事業イメージとしては、地域全体としてのブランディング戦略の確立に資する収益施設であったりとか、小

さな拠点づくりに資する地域コミュニティ組織の日常的な活動の場としてということがございます。

現在、加速化交付金で整備しております施設と一体的な拠点の整備ということで考えさせていただきます。魅力ある中井中央公園の拠点施設を構築すべく、この拠点整備交付金に向けたプラン、考えというものも持って申請をしていきたいと、現在考えているところがございます。

また、その申請に当たりましては、地域再生計画というものを策定した上での申請ということになりますので、総合戦略事業全体をイメージした中で地域再生計画を策定し、交付金を活用すべく、申請をしていきたいと考えています。

【杉本座長】 ありがとうございます。事務局案としては、こういうことをやりたいというのはまだないんですか。もうこの会議は11月まで開かれませんか。

【事務局】 そうですね。

【杉本座長】 もう11月間近ですけれども、全く案がないじゃ議論できないので、どうでしょうか、皆さん、何かご意見ありますか。

【事務局】 1つとしては、今、中央公園に拠点施設を整備させていただいているという状況の中で、その周辺も整備をさせていただくような形をまた検討させていただきなきゃいけないかなと思っておりますけれども、ただ、具体的にどのような施設かというは、まだご提案をさせていただくようなところまでは至っておりません。建物を建てただけではなく、その周囲も整備が必要かなということでは考えさせていただいているという状況になります。

【杉本座長】 どうでしょうか。期待される効果というのは雇用とか、そういう話なので、駐車場整備とか、そういうのでいいかという問題もありますよね。その辺、きちっと考えなきゃいけませんし、今回の拠点施設も、できればお母さんたちが起業していただいて、1人でも多く女性が働いていただくとか、収入を得ていただくとかという場所にならないと、意味が全然ないんですね。だから、そういう仕組みになるようにぜひ考えていただきたいし、多分、国が目指しているのは、もうちょっと雇用創出とか、子どもが生まれるとか、移住者が増えるとかという戦略をやらないとだめだと思いますから、ぜひその辺は至急検討していただいたほうがいいかなと思います。

ほか何かございますか。

せっかくでございますので、各部会の方、ちょっとご意見をお聞かせ願いたいんですけ

れども、どうでしょうか。何か、今日、会議に出られて、ご提案でも結構ですし、感想でも結構ですし、今、もっとこういうことをやったほうがいいのか。

【海野氏】　　じゃ、すいません、私、行きます。

【杉本座長】　　はい、どうぞ。

【海野氏】　　すいません、途中から来させていただきました子育ての輪L e iの海野と申します。代表をやらせていただいております。

私はもともと東京に住んでおりました、9年前にこちらに越してきました。親も近くに住んでない、夫婦でこっちに越して、子どもを産んで、今育てています。今、子どもは年長の子と3歳の子がいて、預けているんですけども、今まで保育園で子どもを預けていました。中村保育園というのがこの近くにあったんですね。2年前、突然なくなりました。中井町はこども園1つになりますということを受けて、今、幼稚園と保育園が1個しか中井町にはないです。幼稚園と保育園が一緒になるということはものすごく難しい問題がいっぱいあって、今、私の子どもは幼稚園に預けさせていただいています。幼稚園と保育園のまず違うことって、お昼寝があるかないかがまず違います。私はどうしても子育て世代なので、ママの目線しかないんですけども、保育園の子どもはお昼寝しています。幼稚園のママたちは、園庭開放が今まであったので、園庭開放で遊べる場所があった。今、遊べる場所がなくなってしまって、居場所がない。じゃあ、どこに行こうかなといったときに、秦野の児童館に行ったり、小田原にある児童館に今、避難を求めている状態です。ぜひ中井町の中央公園なんかもいいよ、遊びに行ってみてと話したところ、雨だとしのげない、何かそんな問題もたくさん出ていて、ママたちの居場所をぜひつくっていただきたいなと思っております。

また、私が犬を飼っているので、ドッグランの話はすごく魅力的で、ただのドッグランをつくるというよりは、競技ができるようなドッグランができればいいかなと思っていて、そこに1名、プロの訓練士さんがいらっしゃっているような感じで、今、アニマルセラピーとかもすごく進んでいるので、子どもたちが少しでも心をそこで癒やしていただけるような施設で、犬と一緒に走りながらスポーツもできるなんて施設ができれば、ほかの市町村にはまだまだないようなものがつくれるのかなと、聞かせていただいた一意見として思いました。

カフェができるということだったので、中井町ってすごくお野菜がおいしいんです。うちの子もニンジンが大嫌いなんですけれども、中井町の炭循環農法、お野菜とかを炭素化し

てできたお野菜、私、ファーマーズマーケットというマーケットも主催でやらせていただいているんですけども、そちらで販売させていただいているニンジンなどは、生で食べていただくが一番味がわかるということで、仲間同士、今一緒に来ている子と話し合っ、サラダバーができたらいんじゃないかという、ちょっと大人なサラダバーがあって、おいしいミカンでできたワインとか、今、私たち、摘果ミカン、先日すごくおいしかったので、冷凍庫で氷にして、その氷にソーダ水を入れたらすごくおしゃれな摘果ミカンのソーダ割りのできたので、ぜひ何かそういったもので、地元のものも使いつつ、かつ、そこが子育てのスペースの中心になっていけるようなものができたら、私たちはすごくありがたいと思っております。

実際に、私たち今、小田原の公民館をお金を出して活用させていただいて、児童館活動をやっているんです。小学生から小さい子どもたち、高校生、中学生もボランティアで来れる、いろいろな世代が交じられる場所を今、先日、神奈川新聞さんのほうもお会いさせていただいたんですけども。

【西郷委員】 出したんです。中井から来られているとは知らなかった。

【海野氏】 つくっております。そんな輪がどんどん広がっていけばいいなと思って、今日のお話を聞かせていただきました。貴重な機会をありがとうございました。

【杉本座長】 ありがとうございます。

【曾我氏】 みかんマルシェの代表の曾我と申します。

まちづくりカフェにも出させていただいているんですけども、やっとなつになったなという感じは今したんですけども、それにしても、何かすっきりしない、何か見えない、何かわからないという感じが率直な感想なんです。もちろんカフェができるとかというのも聞いていますけれども、中井町って、何かちょっと中途半端な気がするんですよね。例えば田舎でもなく、都会でもなく、それから例えばお花畑とかといっても、ちょっとお花畑なんですよね。例えば「ヒマワリ畑ー！」という感じにはならないし、何か中途半端なので、これというものがあつたらいいなと思うんですよね。そこそこ田舎で、そこそこ都会で、都内にもちょっと近いしみたい。だから、カフェも今聞いていたら、中途半端なカフェになつちゃったら嫌だなというのが感想ですかね。農家レストランにもなっていないし、野菜はいっぱいおいしいのがあるし、ミカンもどーんとあるんだけど、それも出たらいいなというのが感想ですかね。

みかんマルシェの方々も、実は中井町の人があまりいないんですよね。だから、秦野の

お店の方が出店してくださっているのです、その人が例えば出てくれても、町の方は、何だよ、よその人じゃんというふうになっちゃうんじゃないかなというのがすごくあるので、中井町の何かが出たらいいなと思いますね。

あと、きのう、テレビの「プロフェッショナル」という番組を見ましたか。あれで、まちおこしのすご腕公務員さんというのをやっていたんですけども、中井町の職員の人にもそういう人が誰かいいますかと言いたいです。何かそういうのがないんでしょうかねと思いました。

そんな感想でいいですかね。すいません、ありがとうございます。

【杉本座長】 ありがとうございます。

では、皆さん、そろそろ時間ですので、全体的に何かご意見、最後にあれば、ぜひお願いします。

ないようですので、先ほど私のほうからもちっと意見させていただきましたけれども、ぜひこれまでと違う取り組みを覚悟してやっていただきたいと思いますので、ぜひ事務局の皆さん、もう一度汗をかいていただきたいなと思います。また、皆様のほうも、言いたいだけ言っていただいたほうがいいと思いますので、ぜひいろいろな知恵を事務局のほうにお寄せいただいて、なかなか全員で集まることはできませんけれども、今度部会のほうにも顔を出させていただけますので、せっかくいい方向に案が出ていると思いますので、実現するのがやっぱり一番難しいんですね。大体はそこで失速してしまうのがほとんどなんです。こういう立派な報告書はできるんですけども、これを実際にやるのはもっと大変なので、そのところをきちっと今回やらないと、多分、来年3月には下を向いていなきやいけないような結果になってしまうんじゃないかなと思いますので、ぜひそういう方向に向かうように、この会議としても運営していきたいと思ひますし、皆さんの協力もぜひよろしくお願ひします。

これで会議は終了したいと思ひます。

では、事務局、よろしくお願ひします。

【事務局】 それでは、4のその他ということで、ちょっと先生よろしいでしょうか。

【杉本座長】 はい、どうぞ。

【事務局】 本日は、いろいろご意見ありがとうございました。ほんとうに身を引き締めなきやいけないなと思ひました。また、次回の会議につきましても、来年の3月ごろにまた開催させていただければなと思ひていますが、その辺は事業の進捗が遅いとい

うことであれば、もう少し早目ということもありますけれども、その辺も含めて開催させていただければと思います。

また、先ほどご意見もいただきましたけれども、フェイスブックとか広報など、またいろいろ周知をさせていただいた中で、町でやっている現在の取り組み、また、今後の進捗も含めた中で、周知を図ってまいりたいと思っております。また、今年度、シティプロモーション、その辺の事業もこれから実施させていただかなければいけないということで考えさせていただいておりますので、またそういう部会も立ち上げた中で、あわせて町のPRとか、その辺も進めさせていただければと考えております。

その他は以上なんですけれども、先生、もうよろしければ締めちゃってよろしいでしょうかね。

【杉本座長】 はい。もう大丈夫です。

【事務局】 それでは、長時間にわたりまして、皆様から貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。ご意見をまた参考にさせていただきまして、地方創生、ほんとうに取り組んでいかなければならないと思っております。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。平成28年度第1回なかい戦略みらい会議を終了させていただきます。ありがとうございました。

○出欠席者は名簿を参照してください。

— 了 —